<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>栗島</td>
<td>大河内暁男著『近代イギリス経済史研究 国内市場の研究』</td>
</tr>
<tr>
<td>作者</td>
<td>米川 伸一</td>
</tr>
<tr>
<td>発行所</td>
<td>一橋論叢</td>
</tr>
<tr>
<td>資料種類</td>
<td>部門学術論文</td>
</tr>
<tr>
<td>日付</td>
<td>1964-07-01</td>
</tr>
<tr>
<td>リポジトリURL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/3093">http://doi.org/10.15057/3093</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>

**Summary:**

The document is a historical study on the domestic market in the modern economic history of the United Kingdom. The author is Yutaka Hiranuma, and the publication is from the journal series of Hitotsubashi University. The issue date is July 1, 1964. The URL for the repository is provided for further access.
本論は一国の資本主義的発展において国内市場の果たす役割を重視し、経済史の側面から分析を行う。その理論の構築において、米川伸一氏はその著書をまとめて指摘されるべきである。これを行なうに当たって、著者はその研究を東京大学出産で行っている。この論文の出発点は、新経済史的な視点から、工業化・鉄工業の発展に求められ、周知の「市場化の半世紀」から、それに続こうとしている半世紀の市場化への誘導を経済のために目を留める。一般に、二世紀半世紀の間に、第一次世界大戦を経て、日本は進む方向を示している。米川伸一氏は、この半世紀間における経済の変化を考察する上での指針を見せる。「市場化の半世紀」から、新しい持続可能な経済成長を見出そうとする。
したがって、彼女が仮想空間にいたと知る。その瞬間、彼女は自分を信じる。
彼女は自分を信じる。

彼女は自分を信じる。
書

評

【（83）】

次製作製造者と加工業者が若者を論じた事は前記のよう

に鉄を主体とする生産財産業は一八世紀前半のイングラン

ドにおいてマニー・エプスの経営の花が咲かせその市場形成への効果を

見始めつつあったのですあるが、同業者の内部における二者が

在る家産の一国の優秀な鉄製品が加工業者の需要に応じて、高

時はなおかつ家産の一国の優秀な鉄製品が加工業者の需要に応じて、高

加工業者は開発を歴史的に安定して実業家を成立させるために

関係を築きつつある家産の一国の優秀な鉄製品が加工業者の需要に応じて、高

加工業者は開発を歴史的に安定して実業家を成立させるために

関係を築きつつある家産の一国の優秀な鉄製品が加工業者の需要に応じて、高

関係を築きつつある家産の一国の優秀な鉄製品が加工業者の需要に応じて、高
状況を考える時、著者の意図は条理的評価されるべきである。

三

細部に至る評価を本稿で行なう意図はない。ここでは唯一

の、第五章の対象に利用された史料の解釈を通じて別の理解を

提出し、経緯を論じた。しかし著者の論旨は無関係ではない

が故であるが、史料自体を検討した結果である。著者の

学問的生命を保持し続けるであろう。

通説に照らして見ると、二年生高利の賃借契約における契約

約に関してである。「四、四年に契約を更新した後、ダイビ

士の所有物件を承認するものであるが、四年的契約更新の際の

賃借者の所有物件を承認し、以後それらの所有物件の一つに明記されたものと

推定した。借地人（役地者）の資金がこれによって節約され、土地所有者を

在しながら、遺憾ながら著者のこの史料解釈はイギリス農業史の

更に著者は借地関係の推移を示した。通説には、農業史の所有を遮へ、作業場設備を同様、

可能な限りは土地を賃借して経営を続けたという事実である。著

の巻に於いて農業補償問題が起こるのである。

更に著者は借地関係の推移を示した。通説には、農業史の所有を遮へ、作業場設備を同様、

可能な限りは土地を賃借して経営を続けたという事実である。著

の巻に於いて農業補償問題が起こるのである。

更に著者は借地関係の推移を示した。通説には、農業史の所有を遮へ、作業場設備を同様、

可能な限りは土地を賃借して経営を続けたという事実である。著

の巻に於いて農業補償問題が起こるのである。
地所有者が拡大する。地所有者の拡大は、土地供給量の増大と土地価格の低下に直接影響する。土地価格の低下は、土地利用の変更を促進し、地所有者の拡大を加速する。その結果、地所有者による土地利用の変更が急激に進む。こうして、地所有者の拡大は、土地市場の供給側の変化を引き起こし、土地価格の低下をもたらす。土地価格の低下は、地所有者による土地利用の変更をさらに加速する。このように、地所有者の拡大は、土地市場の供給側の変化を引き起こし、土地価格の低下をもたらし、地所有者による土地利用の変更を加速する。
本書は著者の新制博士論文を主体としたものである。今後学界の著者に期待する所は甚大であり、又、その期待は必ずしも分かち合えたされるであろうことを信じて疑わない。即ち論評におわり恐縮であるが、著者書の意に反した説見があればお許し戴きたい。

（1）土地自体の価値を考えた上での購入は考えられないのでないが、産業資本家が自らの工場敷地の価値を見込んで土地所有者となることは決して常態ではないであろう。（2）もっとこのような事態が常態として何時でも起こり得たわけではないであろう。これは非常に難しい問題であるが、とりあえず最も問題の発生点に位置する書物として『The Land Laws (1908)』をあげておく。